

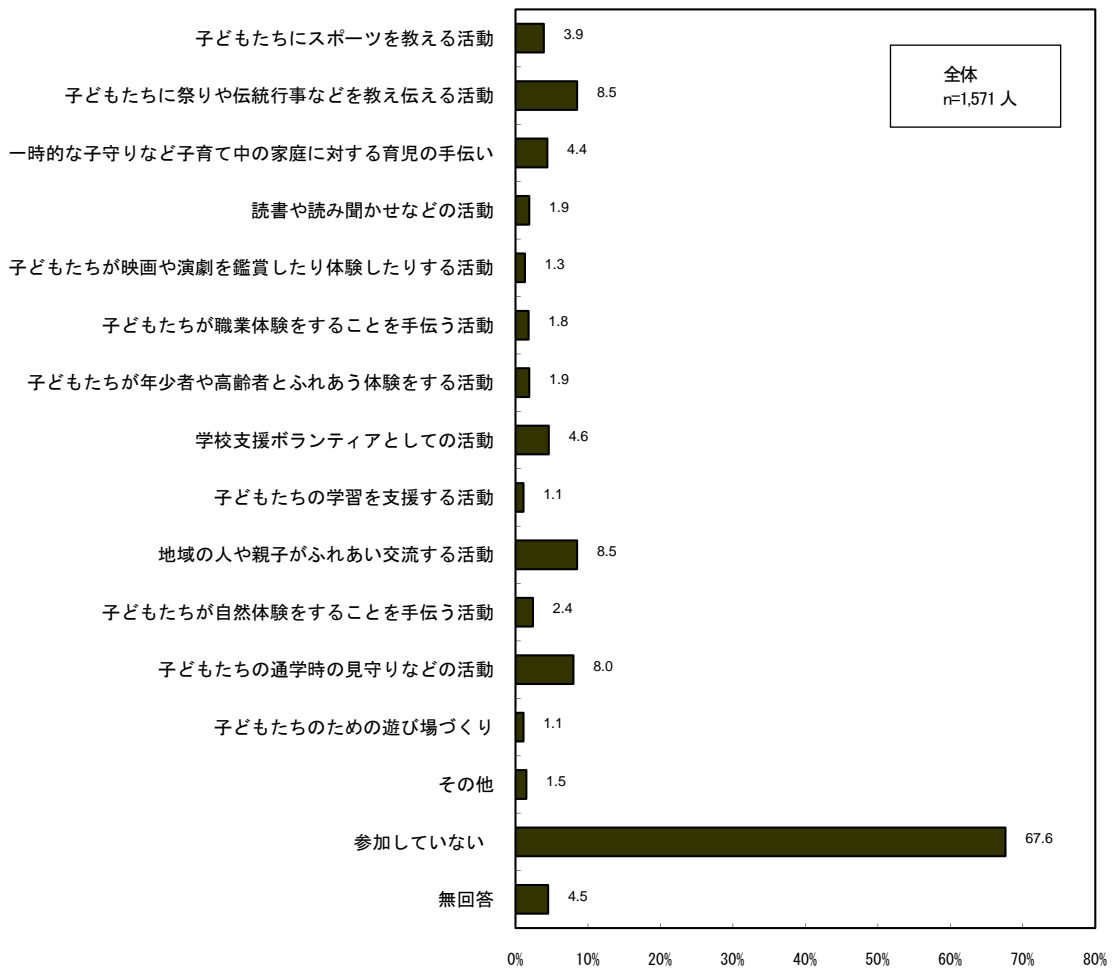
3. 地域の子どもたちとかかわる活動について

(1) 最近一年間に参加したことがある活動

問 15. あなたは、次のような地域の子どもたちとかかわる活動に参加したことがありますか。

最近一年間に参加したことがある活動がありましたら、あてはまる番号に、いくつでも○をつけてください。

(MA)



「参加していない」と答えた人 (67.6%) が3人に2人以上

「参加していない」と答えた人 (67.6%) が最も多く3人に2人以上を占める。

参加した活動の中では、「子どもたちに祭りや伝統行事などを教え伝える活動」と「地域の人や親子がふれあい交流する活動」が共に 8.5%で最も多く、次に「子どもたちの通学時の見守りなどの活動」(8.0%)、「学校支援ボランティアとしての活動」(4.6%)、「一時的な子守りなど子育て中の家庭に対する育児の手伝い」(4.4%) の順に続く。

どんな人が参加しているのかを考える手がかりとして、「子どもたちに祭りや伝統行事などを教え伝える活動」を代表としてとりあげると、地域性の観点からは、北区(11.5%)、江南区(10.4%)、秋葉区(13.5%)、南区(14.0%)、西蒲区(12.3%)と市の周辺部に住む人が高い一方、東区(7.8%)、中央区(6.1%)、西区(4.2%)と、市の中心部で低い。

男性(9.4%)、女性(7.7%)ではあまり大きな差がなく、年代で見ると20代(3.0%)が低く、30代(10.2%)、40代(14.3%)が高く、50代(6.7%)、60代(8.2%)、70代以上(7.4%)は平均程度である。

居住期間は、1年未満(2.5%)から徐々に高まる。1年以上3年未満(6.5%)、3年以上5年未満(8.3%)、5年以上10年未満(11.6%)で最も高く、以降、10年以上15年未満(9.6%)、15年以上20年未満(6.0%)、20年以上(8.8%)となる。子どものいる人は15.7%であり、子どものいない人は6.0%である。

家族構成においては、ひとり暮らし(5.6%)、夫婦のみ(5.0%)は低く、2世代世帯(親と子)(8.5%)よりも3世代世帯(親と子と孫)(13.3%)の方が高い。

つまり、市周辺部で(祭りや伝統行事が保たれていて)、3世代世帯で10年程度居住する、小学生から中学生くらいの子を持つ人がもっとも参加する、という平均像となる。

他方、「参加していない」と答えた人の属性は、この逆になる部分もあれば、それほど明確な傾向の出ない部分もある。地域性の観点からは、最も低い南区(62.4%)から最も高い西区(71.9%)の間の差に収まるため、地域的な傾向はない(無回答(56.1%)が最も低いのはあるが)。男性(67.2%)、女性(68.7%)でも大きな差がない。

年代で見ると20代(79.1%)が高く、30代(65.3%)、40代(58.5%)と下がっていき、50代(77.1%)で急上昇し、60代(67.4%)、70代以上(64.4%)となる。

居住期間は、1年未満(82.5%)からどんどん下がっていく。1年以上3年未満(74.8%)、3年以上5年未満(67.9%)、5年以上10年未満(61.9%)、10年以上15年未満(58.1%)となりその後上昇、15年以上20年未満(66.9%)、20年以上(69.4%)となる。子どものいる人は47.7%であり、参加していない人が半数である(無回答3.0%を考えると、参加している人は49.3%)のに対し、子どものいない人は74.6%と、4人のうち3人が参加していない(無回答4.3%を考えると、参加している人は21.1%)。

家族構成においては、ひとり暮らし(73.4%)、夫婦のみ(72.7%)は参加しておらず、2世代世帯(親と子)(66.9%)、3世代世帯(親と子と孫)(60.0%)で参加しない人が減る。

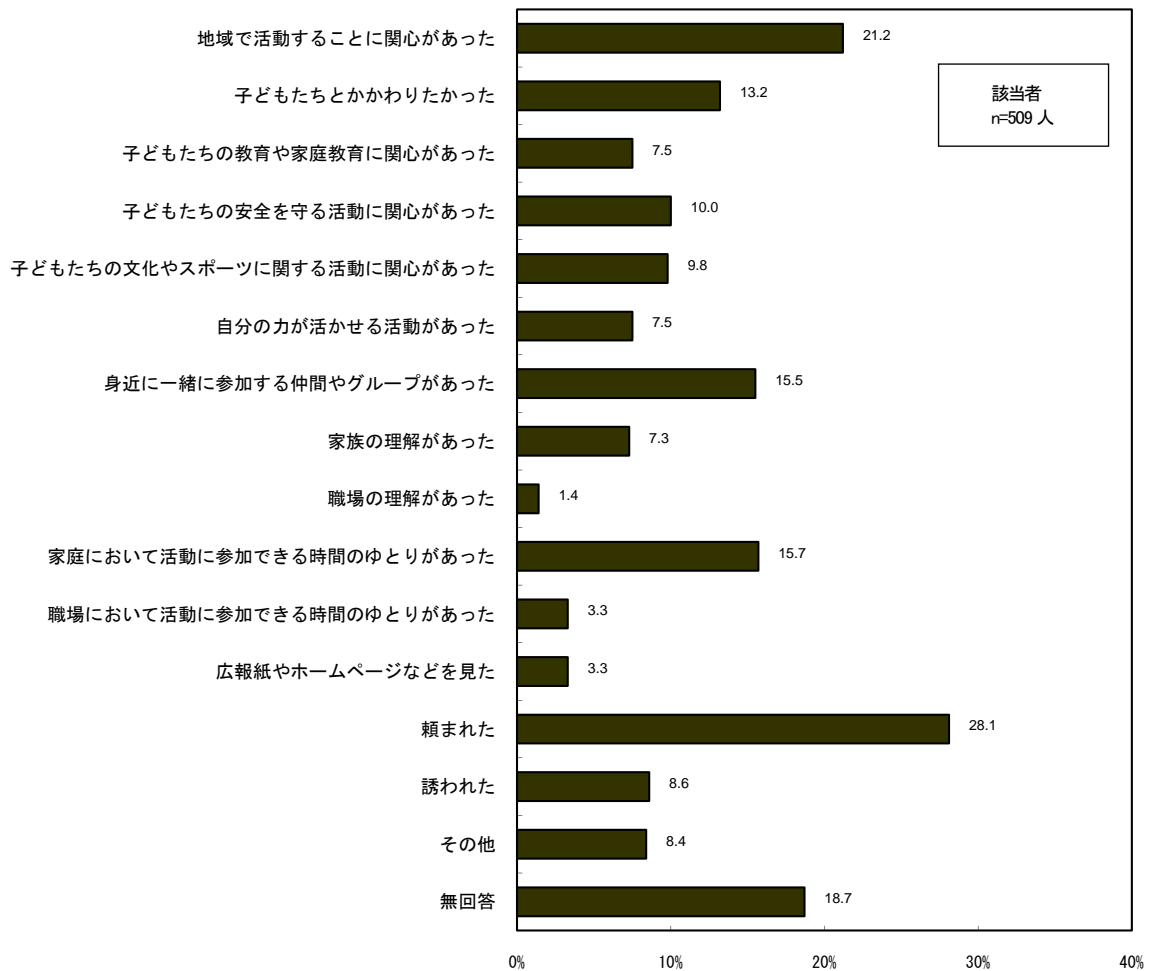
つまり、参加していない人は、参加している人の像の裏返しにはなるが、居住地域についてはとくに偏りがなく、という平均像となる。

(2) 活動に参加したきっかけ

問16-1. 問15で、「最近一年間に参加したことがある」と答えた方にうかがいます。

(1) 「最近一年間に参加したことがある」活動に参加したきっかけは何ですか。

あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。(3A)



「頼まれた」からと答えた人が3割近く

「頼まれた」と答えた人(28.1%)が最も多くほぼ3割を占めた。次に「地域で活動することに関心があった」(21.2%)、「家庭において活動に参加できる時間のゆとりがあった」(15.7%)、「身近に一緒に参加する仲間やグループがあった」(15.5%)、「子どもたちとかかわりたかった」(13.2%)の順に続く。

「職場の理解があった」(1.4%)、「職場において活動に参加できる時間のゆとりがあった」(3.3%)と、職場に関係した理由を答えた人は、とても少なかった。

「頼まれた」人は、男性(30.4%)、女性(27.5%)で大きな差がない。年代で見ると20代(32.1%)、30代(32.6%)、50代(36.9%)、60代(32.0%)が高く、40代(26.9%)70代以上(17.8%)が低い。

居住区では、江南区（44.2%）が最も高く、少し下がって南区（34.3%）、北区（30.4%）、秋葉区・西蒲区（27.1%）と市の周辺部が占め、市の中心部の西区（26.4%）、東区（26.3%）、中央区（25.8%）、と低くなっている。

その他の居住期間の観点などからは、明確な傾向はなかった。逆に言えば、問15で違いの多く見られた「子どもの有無」で大きな違いがないということである。むしろ、子どもがいない人の方が選択率が高い項目もあり、同程度のものが多い。

各選択肢について見ていくと下表のとおりである。

(%)	全体	(子どもが いる	(子どもが いない
地域で活動することに関心があった	21.2	19.9	22.5
子どもたちとかわりたかった	13.2	16.0	12.0
子どもたちの教育や家庭教育に関心があった	7.5	9.7	6.0
子どもたちの安全を守る活動に関心があった	10.0	10.2	9.9
子どもたちの文化やスポーツに関する活動に関心があった	9.8	11.2	7.7
自分の力が活かせる活動があった	7.5	5.3	9.5
身近に一緒に参加する仲間やグループがあった	15.5	13.6	16.9
家族の理解があった	7.3	7.8	6.7
職場の理解があった	1.4	1.0	1.8
家庭において活動に参加できる時間のゆとりがあった	15.7	17.5	15.5
職場において活動に参加できる時間のゆとりがあった	3.3	4.9	2.5
広報紙やホームページなどを見た	3.3	6.8	1.1
頼まれた	28.1	28.6	28.2
誘われた	8.6	8.3	9.5
その他	8.4	12.1	6.3

「無回答」は省略

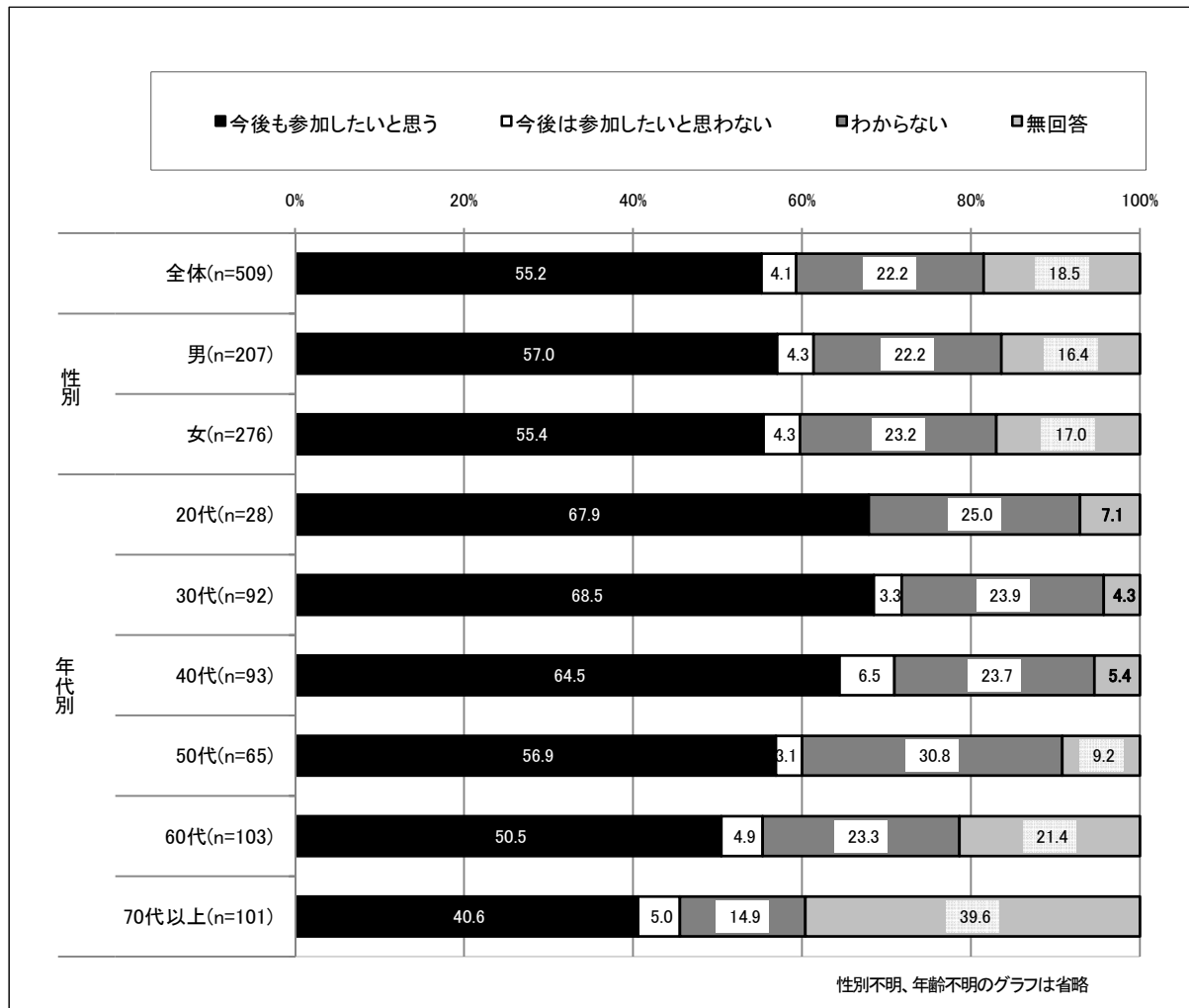
なお、回答者509名のうち無回答95名を除く414名がつけた○の数の合計は819個であるので、この414名は1人平均1.98個の○をつけていることになる。参加したきっかけとして多くの人は2つ程度を当てはまることと考えているようである。

(3) 今後の活動参加意向

問16-2. 問15で、「最近一年間に参加したことがある」と答えた方にうかがいます。

(2) 今後も地域の子どもたちとかかわる活動に参加したいと思いますか。

あなたのお考えにちかいものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。(SA)



「今後も参加したいと思う」と答えた人が半数以上

「今後も参加したいと思う」と回答した人(55.2%)が最も多く半数以上を占める。「わからない」と答えた人が22.2%で、「今後は参加したいと思わない」と答えた人は4.1%に留まっている。

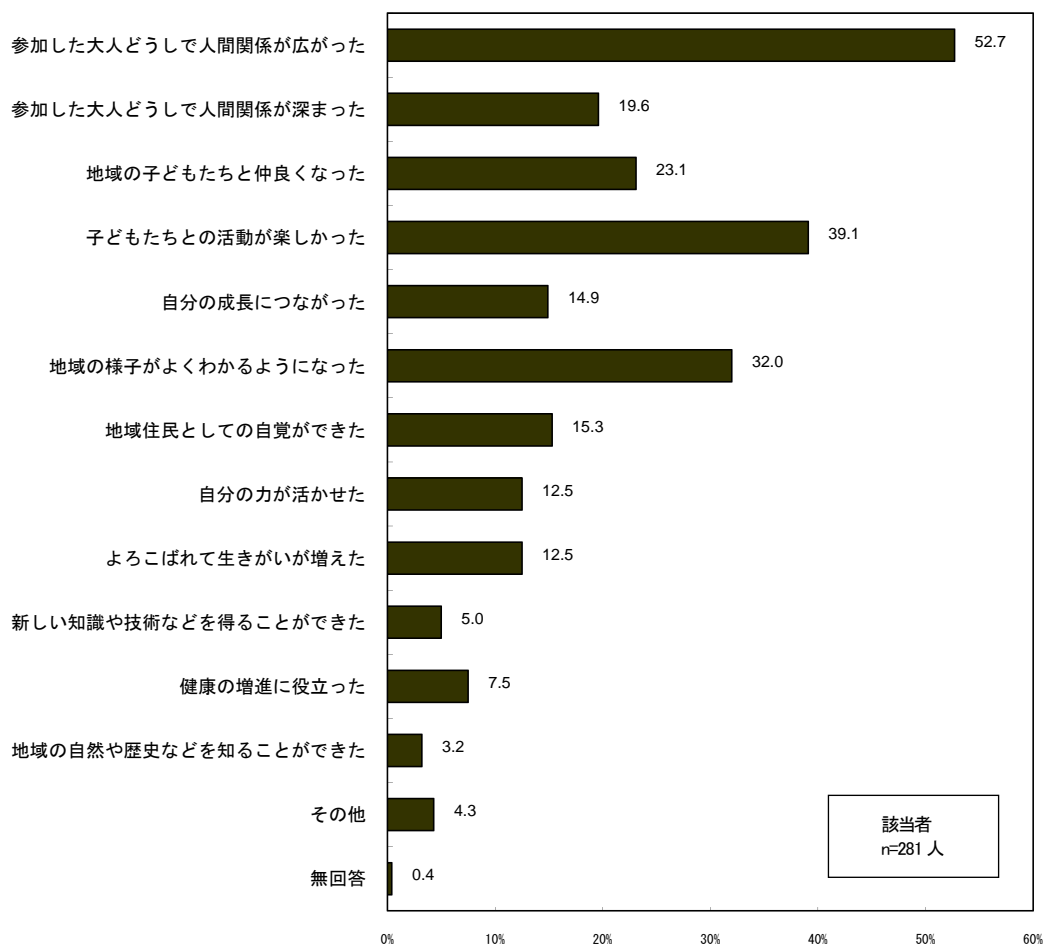
「今後も参加したいと思う」人は、秋葉区(68.8%)と中央区(46.4%)の差が大きく、北区(56.5%)、東区(56.3%)、江南区(58.1%)、南区(57.1%)、西区(58.6%)、西蒲区(58.3%)は平均的である。

年代で見ると20代(67.9%)、30代(68.5%)、40代(64.5%)が高く、50代(56.9%)、60代(50.5%)、70代以上(40.6%)であり、居住期間で見ると、1年未満(71.4%)、1年以上3年未満(66.7%)、3年以上5年未満(85.2%)、5年以上10年未満(53.6%)、10年以上15年未満(50.9%)、15年以上20年未満(56.8%)、20年以上(54.0%)となり、総じて、若い人、居住期間の短い人の方が今後も参加しようと思っている。

(4) 活動に参加したいと思う理由

問17. 問16(2)で、「1 今後も参加したいと思う」と答えた方にかかっています。

「今後も参加したい」理由として、あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。(3A)



「参加した大人どうして人間関係が広がった」が半数以上

「参加した大人どうして人間関係が広がった」と答えた人 (52.7%) が最も多く半数を超す。次に「子どもたちとの活動が楽しかった」(39.1%)、「地域の様子がよくわかるようになった」(32.0%)、「地域の子どもたちと仲良くなった」(23.1%) の順に続き、自分の居場所が広がることや活動の楽しさを理由として答えた人が多かった。

一方、「地域の自然や歴史などを知ることができた」(3.2%)、「新しい知識や技術などを得ることができた」(5.0%)、「健康の増進に役立った」(7.5%) といった個人的なメリットを理由として答えた人は少なかった。

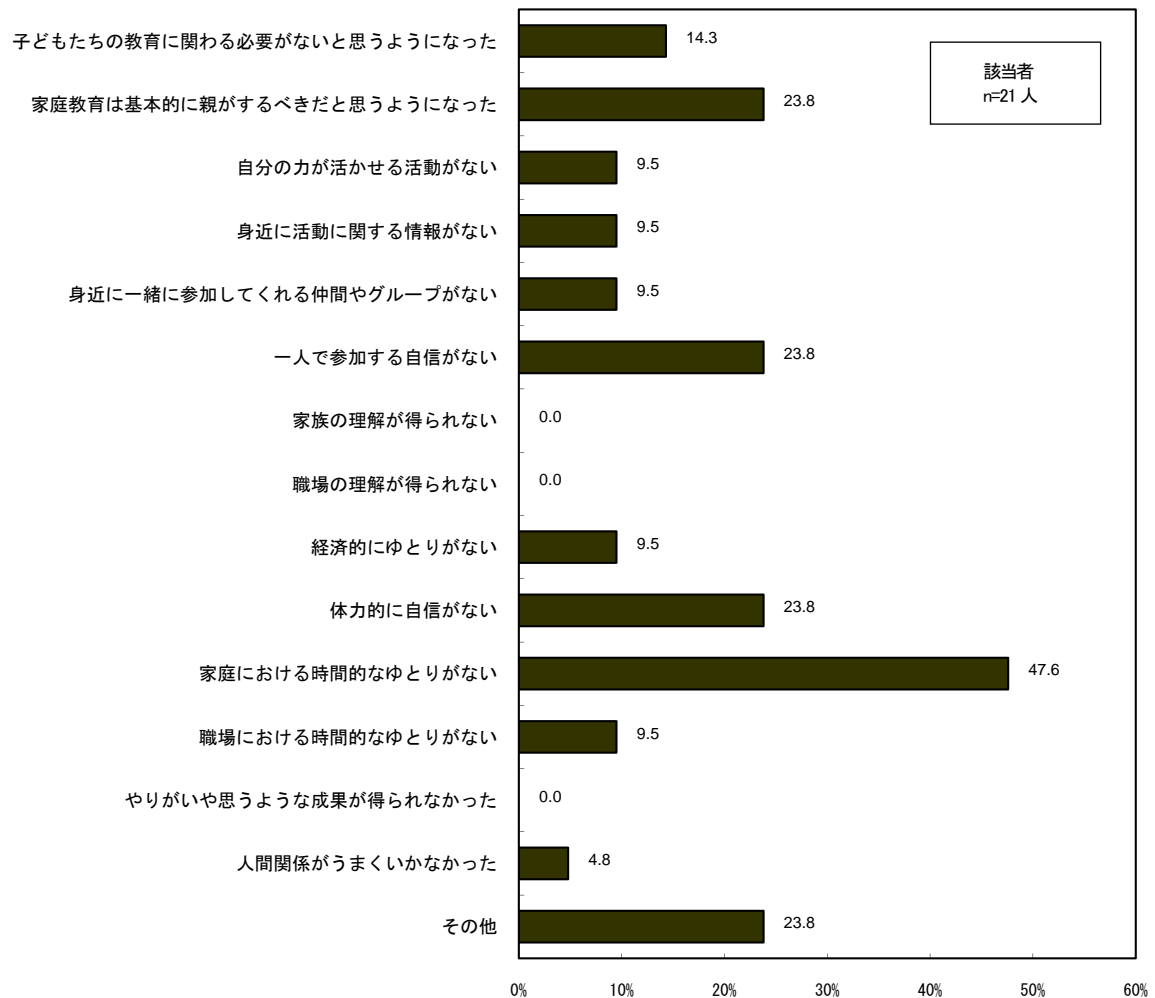
全回答者から無回答1人を除いた280人で、○の数合計679(無回答の○を除く)を割ると、1人2.43個となる。2つないし3つという複数の参加理由を持っていることが分かる。

(5) 活動に参加したいと思わない理由

問 18. 問 16 (2) で、「2 今後は参加したいと思わない」と答えた方にうかがいます。

「今後は参加したいと思わない」理由として、あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。

(3 A)



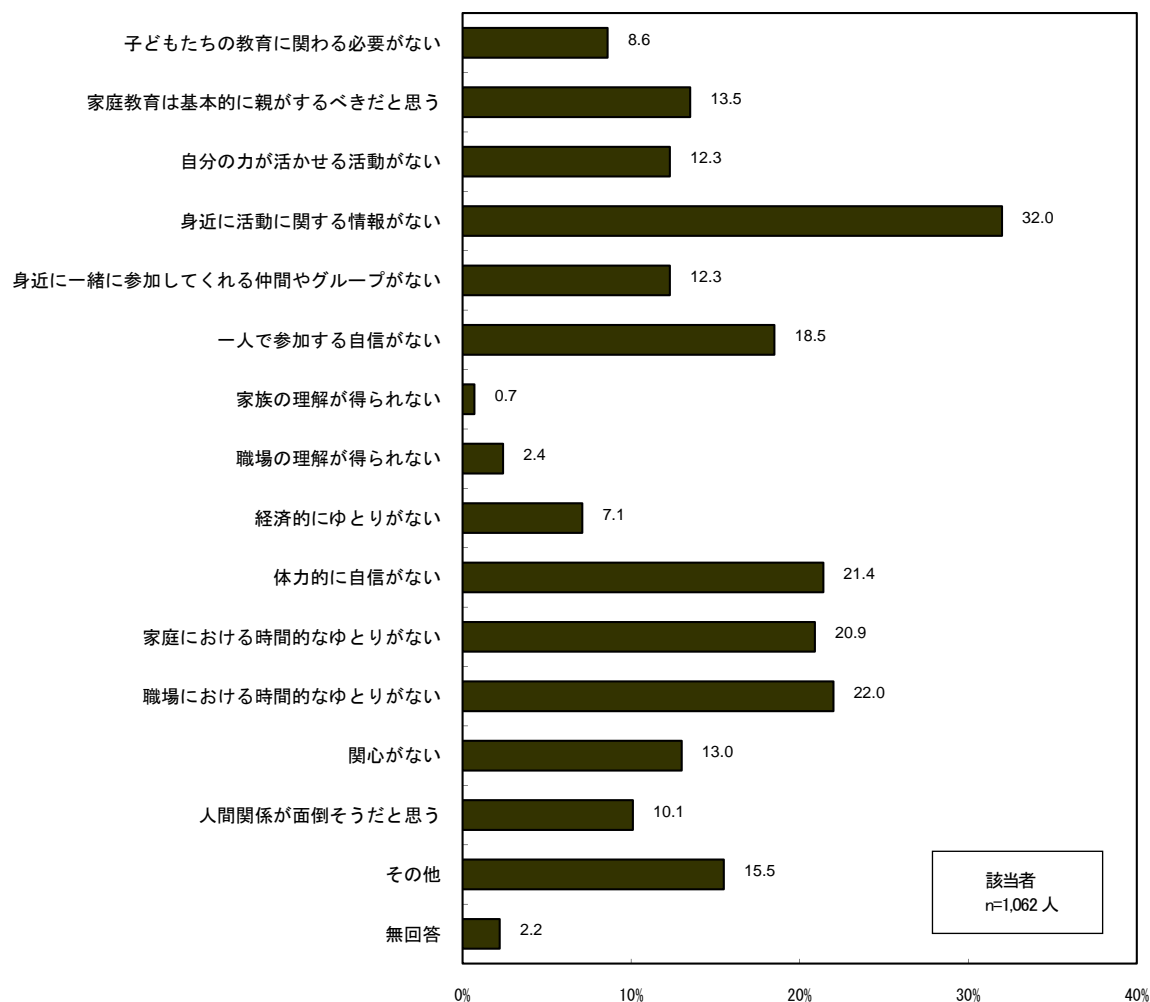
「家庭における時間的なゆとりがない」が半数近く

今後は参加したいと思わない人は21名と少ない。その理由としては、「家庭における時間的なゆとりがない」と答えた人(47.6%)が最も多く半数近くを占めた。次に「家庭教育は基本的に親がすべきだと思うようになった」、「一人で参加する自信がない」、「体力的に自信がない」と答えた人が共に23.8%、「子どもたちの教育に関わる必要がないと思うようになった」(14.3%)の順に続く。

○の合計数44個を21人で割ると、1人平均2.10個となる。1つか2つの、明確に参加したいと思わない理由があることが推測される。

(6) 活動に参加していない理由

問19. 問15で、子どもたちとかかわる活動に最近一年間「15 参加していない」と答えた方にうかがいます。
「参加していない」理由として、あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。(3A)



「身近に活動に関する情報がない」が3割以上

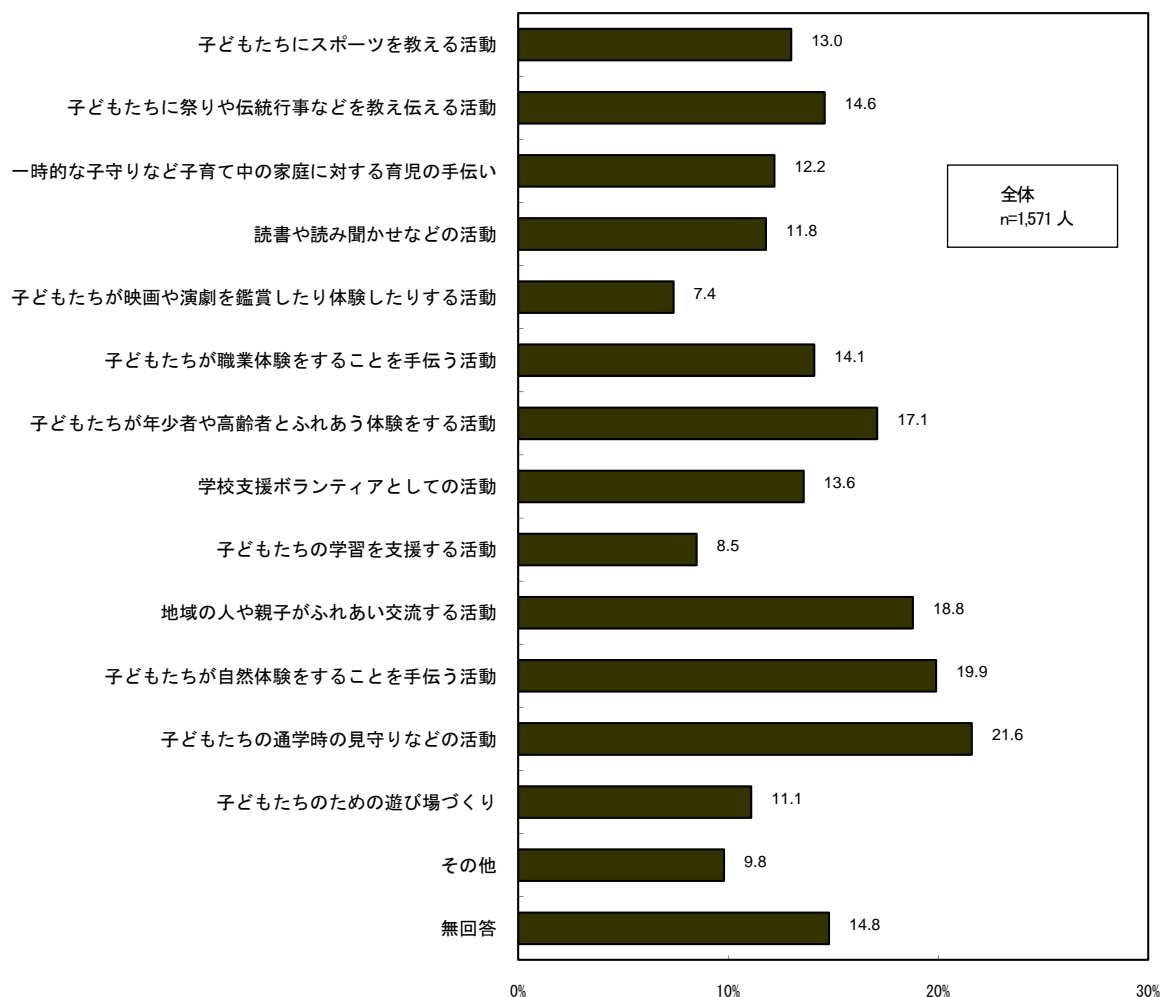
「身近に活動に関する情報がない」と答えた人 (32.0%) が最も多く3割以上を占めた。次に「職場における時間的なゆとりがない」(22.0%)、「体力的に自信がない」(21.4%)、「家庭における時間的なゆとりがない」(20.9%)の順に続く。

その他の記述では、「子どもがいないから」、「高齢だから」といった意見も多かった。

回答者から無回答24人を引いた1,038人で○の数合計2,234個(無回答の○は除く)を割ると、1人2.15個となる。3つまで○をつけてよい設問であるが、活動に参加していない理由は2つもあれば十分なようである。

(7) 今後、参加してみたい活動

問20. あなたが今後、参加してみたい地域の子もたちとかかわる活動はありますか。
あてはまる番号に、いくつでも○をつけてください。(MA)



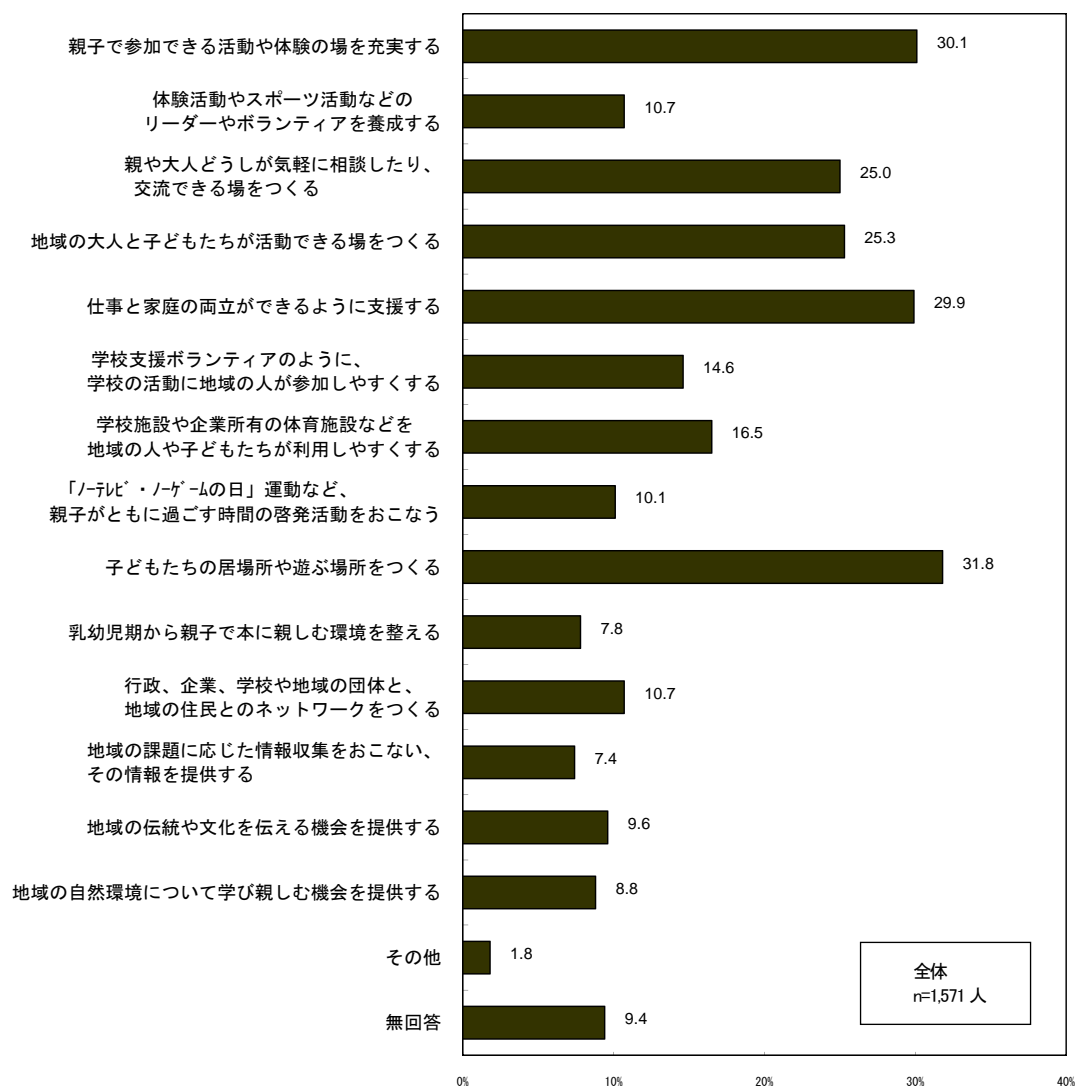
参加してみたい活動は、様々 最も多い「子どもたちの通学時の見守りなどの活動」でも2割強

今後参加してみたい活動は様々である。最も多い「子どもたちの通学時の見守りなどの活動」でも21.6%と2割強に留まっている。次に「子どもたちが自然体験をすることを手伝う活動」(19.9%)、「地域の人や親子がふれあい交流する活動」(18.8%)、「子どもたちが年少者や高齢者とふれあう体験をする活動」(17.1%)と続くが、最も少ない「子どもたちが映画や演劇を鑑賞したり体験したりする活動」でも7.4%の人が選んでいる。

全回答者1,571人から無回答者232人を除いた1,339人がつけた○の数は3,038個であり、1人平均2.27個となる。皆が2個以上を、比較的多様に選んだということであろう。

(8) 地域全体での子育てのために、力を入れたらよいと思うこと

問 21. 地域全体で子どもたちを育てていくためには、行政や企業、学校、地域の団体（地域コミュニティ協議会、子ども会、PTAや青少年団体、子どもにかかわる活動をおこなうNPOなど）はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。あてはまるものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。（3A）



「子どもたちの居場所や遊ぶ場所をつくる」「親子で参加できる活動や体験の場を充実する」「仕事と家庭の両立ができるように支援する」ことを求めている人が多い

「子どもたちの居場所や遊ぶ場所をつくる」と答えた人（31.8%）が最も多い。次に「親子で参加できる活動や体験の場を充実する」（30.1%）、「仕事と家庭の両立ができるように支援する」（29.9%）、「地域の大人と子どもたちが活動できる場をつくる」（25.3%）、「親や大人どうしが気軽に相談したり、交流できる場をつくる」（25.0%）の順に続く。

全回答者 1,571 人から無回答者 147 人を除いた 1,424 人がつけた○の数は 3,773 個であり、1 人平均 2.65 個となる。半数以上の人々が 3 個をあげており、いろいろと取り組んでほしいと思っていることがうかがえる。

「3. 地域の子どもたちとかかわる活動について」の総括

最近一年間に参加したことがある活動を最初に聞いているわけであるが、「参加していない」という回答者が67.6%と3分の2を占めた。子どものいる人は49.3%が参加しているが、子どものいない人は21.1%しか参加していないためである。

子どものいる人でさえ半分しか参加していない、と悲観的にみるか、子どものいない人でも5人に1人も参加している、と楽観的にみるか、その出発点の違いは政策の大きな違いに結び付くが、これらの評価検討は今後行っていくものとして、以下、全体結果の要約からもうすこし踏み込んだまとめを行う。

「(1) 最近一年間に参加したことがある活動」の内容は、「子どもたちに祭りや伝統行事などを教え伝える活動」(8.5%)、「子どもたちにスポーツを教える活動」(3.9%)などの旧来からある活動形態と、「地域の人や親子がふれあい交流する活動」(8.5%)、「子どもたちの通学時の見守りなどの活動」(8.0%)、「学校支援ボランティアとしての活動」(4.6%)、「一時的な子守りなど子育て中の家庭に対する育児の手伝い」(4.4%)といった、近年の社会情勢や学校教育の状況から新たに求められるようになった活動が多く、後者が一層増えていくのではないかと予想される。市周辺部で(祭りや伝統行事が保たれていて)、3世代世帯で10年程度居住する、小学生から中学生くらいの子を持つ人がもともと参加する、という平均像をさらに拡大するには、これらの活動自体を増やしていくことが必要であろう。

「(2) 活動に参加したきっかけ」では、「頼まれた」と答えた人(28.1%)が最も多く、「身近に一緒に参加する仲間やグループがあった」(15.5%)、という回答も併せて考えると、やはり人のつながりが大切ということがいえるだろう。

「(3) 今後の活動参加意向」においては、「今後も参加したいと思う」と回答した人(55.2%)が最も多く半数以上を占め、「今後は参加したいと思わない」と答えた人は4.1%に留まっている。「わからない」(22.2%)、「不明・無回答」(18.5%)の人がかなり多いのであるから、この層に対してどのように働きかけるのかを考えていかなければならない。

そのことの手助けとなるのが、「(4) 活動に参加したいと思う理由」であるが、「参加した大人どうしで人間関係が広がった」と答えた人(52.7%)が最も多く半数を超し、次に「子どもたちとの活動が楽しかった」(39.1%)となっている。(2)に引き続き、人のつながりが求められていると言えるだろう。

逆に「(5) 活動に参加したいと思わない理由」では、そもそも回答者・回答率が21名・4.1%と少ないので、「家庭における時間的なゆとりがない」と答えた人(47.6%)が最も多いことについて、どの程度の対策をとるべきか考えどころである。

むしろ(6) 活動に参加していない理由を考えることが有用であり、「身近に活動に関する情報がない」(32.0%)ということへの対応が求められる。

また「(7) 今後、参加してみたい活動」で、様々なものが選ばれていることも考慮すべきことである。最も多い「子どもたちの通学時の見守りなどの活動」でも21.6%しかないが、最も少ない「子どもたちが映画や演劇を鑑賞したり体験したりする活動」でも7.4%の人が選んでいることから、アンケート項目に例示したものは何かしら、誰かしら、やってみたい活動と考えられる。

「(8)地域全体での子育てのために、力を入れたらよいと思うこと」でも、「子どもたちの居場所や遊ぶ場所をつくる」(31.8%)、「親子で参加できる活動や体験の場を充実する」(30.1%)、「仕事と家庭の両立ができるように支援する」(29.9%)から、最も少ない「地域の課題に応じた情報収集をおこない、その情報を提供する」でも7.4%の人が選んでいる。

地域の子どもたちとかかわる活動については、内容的により一層多様に取り組むことが求められているし、また、それらの活動への参加意欲も広く存在している。活動の幅を広げたり種類を増やしたり量を拡大したりしても、広報活動の充実や人と人とのつながりを大切にすることがうまくいけばより多くの人々が参加して、それらの活動を支えていくことが期待される。

4. 自由記述（概略）

本調査における自由記述には、313人から意見があった。これは回答者全体1,571人に対し約2割である。

内容で分けると最も多く寄せられたのは、『親（大人）の教育力』『大人のマナー』に関する意見であった。（計60件）。以下、『子どもの遊び場・子どもの様子』（43件）、『親の時間・ゆとり』（35件）、『核家族化・近所・親同士のつきあい』（32件）の順であった。（件数は一部重複させている。）

『親（大人）の教育力』については、「学校や他人任せにしている」「注意しない大人が多い」、『大人のマナー』については、「親を含めた大人が子どもの手本になっていない」などの意見があげられている。

『子どもの遊び場・子どもの様子』については、「子どもの姿を見ない」「もっと外で遊ぶようになることを望む」意見と「遊び場が少ない」「サッカーなどができる遊び場、公園の整備や充実」などがあげられている。

『親の時間・ゆとり』については、「共働き家庭、ひとり親家庭の増加、労働時間が長いことなど仕事との両立の大変さ」「大人社会全体の精神的、経済的なゆとりのなさ」などの意見があげられている。

『核家族化・近所・親同士のつきあい』については、「子どもが少なく大人同士の交流も不足している」「地域への関心が低く希薄である」などの意見があげられている。

内容については、以下の15項目に分類して一部抜粋し記載する。

1. 親（大人）の教育力に関すること
 2. 大人のマナーに関すること
 3. 親の時間・ゆとりに関すること
 4. 親子の関係・コミュニケーションに関すること
 5. 地域全体で子どもを育てることに関すること
 6. 核家族化・近所・親同士のつきあいに関すること
 7. 安心・安全に関すること
 8. 住民どうしのつながりに関すること
 9. 子どもの遊び場・様子に関すること
 10. 地域の子どものと接する機会に関すること
 11. 体験に関すること
 12. 地域の文化・歴史に関すること
 13. 地域活動への参加に関すること
 14. 自治会・子ども会活動などに関すること
 15. 行政や企業、学校、地域の団体への要望など
-